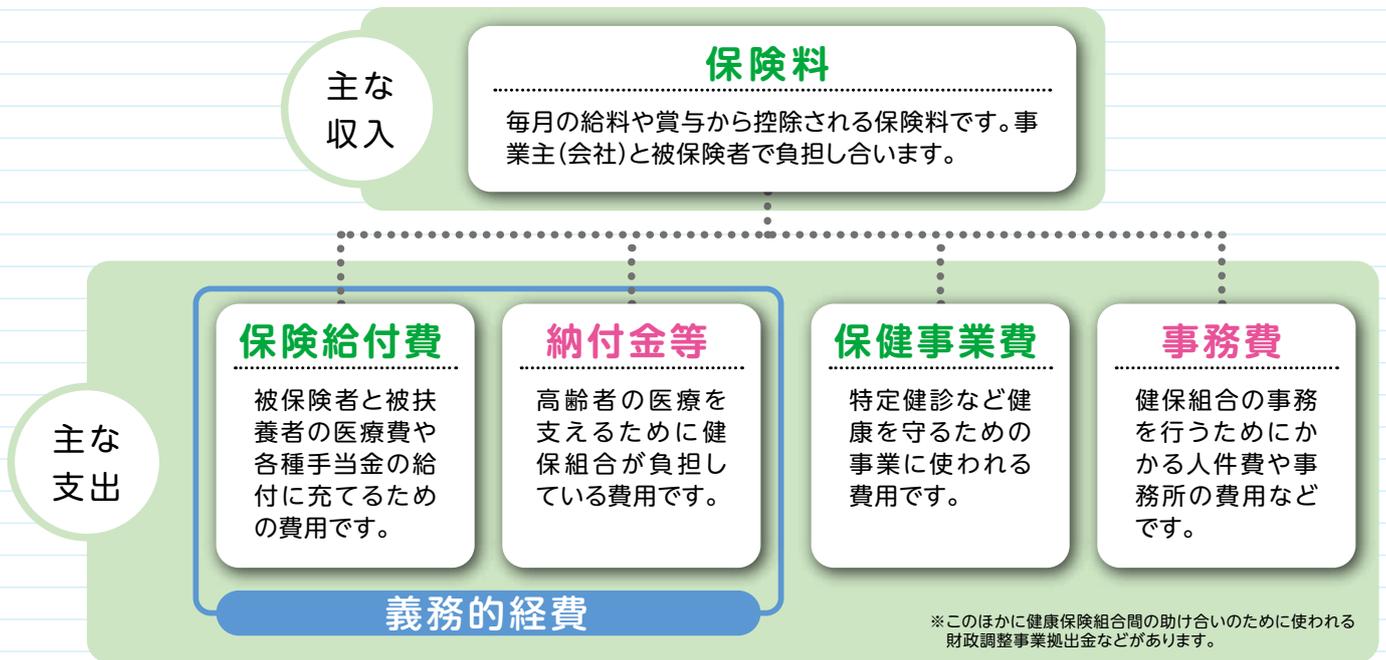


あなたの保険料は何に使われる？

健保組合の運営にかかる費用のほとんどは保険料で賄われています。
保険料は何に使われているか、確認してみましょう。

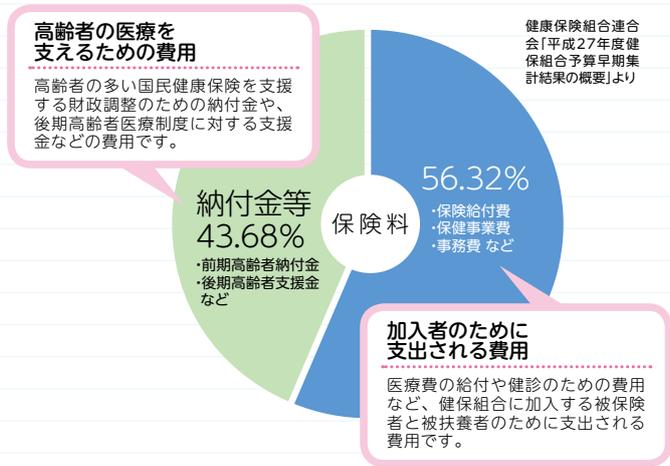


保険料の多くは高齢者の医療のために使われる

健保組合では高齢者の医療を支えるために、納付金として多額の費用を負担しています。近年は高齢者の医療費の増加により納付金が急増し、健保財政を悪化させる要因となっています。

健保組合全体で見ると、平成27年度予算では保険料収入の4割以上が納付金として支出されています。納付金は、健保組合の被保険者や被扶養者のために使われる費用ではありません。つまり、保険料の多くが加入者のためには使われていないのです。

納付金の負担による健保財政の悪化で、多数の健保組合が保険料率を引き上げています。今後も高齢化の影響で納付金が増えることは確実で、限界を超えたこのような「高齢者への仕送り」がどこまで続けられるか、健保組合にとっては大きな問題となっています。



健保組合の2つの仕事 保険給付と保健事業

健保組合の仕事には、大きく分けて「保険給付」と「保健事業」があります。

保険給付では、病気やけがなど不測の事態に対し医療費や手当金を給付し、必要な人が健康保険の給付を受け取ることができるようにしています。適切な給付を行うために被扶養者資格の確認を行い、適正な被扶養者認定を行うことも大事な仕事のひとつです。

一方、保健事業として、健診や保健指導などのさまざまな事業を実施し、加入している皆さまの健康を守ることに努めています。病気を未然に防ぐことで医療を必要としない健康な生活を維持していただき、医療費を減らすことが目標です。

健保組合の役割は、限られた保険料を有効に使って、独自性を発揮しながらより効率的・効果的にこれらの仕事を行うことです。

膨らむ義務的経費 健保財政悪化が進む

健保組合には、保険給付や保健事業を行う以外にも、高齢者の医療を支えるための納付金の負担が義務づけられています。高齢者の医療費の急増に対応するために、納付金を負担することも健保組合の大きな役割です。健康保険の給付のための保険給付費と納付金は、健保組合に必ず支出するように義務づけられた費用ですから、2つをまとめて「義務的経費」と呼んでいます。

近年は保険料のほとんどが義務的経費に支出される状況にあります。高齢化などの要因で義務的経費は膨らみ続けており、健保組合の本来の役割の1つである充実した保健事業の実施が難しくなるほど健保財政を悪化させています。

義務的経費の増大という厳しい状況下で、どのように独自性を発揮し、どう役割を果たしていくかが健保組合のこれからの課題です。